

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



2021



月号

- 2 理事長挨拶
- 5 社会の声①
- 13 ささきみつおコーナー
- 14 育児日記
- 14 塀の中のたより
- 17 つぶやき!
- 19 ラブリー-DAYS
- 19 社会の声②
- 20 健康相談窓口
- 21 回復プログラム 実践
- 22 プリズムアート倶楽部
- 23 行事予定

表紙... t a t s u y a さん

♪移送・出所される方は必ずご一報ください。
MLP (文通) に参加している方は文通相手へ
のお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です (差出
人欄の住所で確認できるため)。MLP に参加し
ていない方は事務局にご連絡ください。
♪23ページのお知らせをご確認願います。

理事長挨拶

段々と寒くなってきましたが、皆様、いかにお過ごしでしょうか？私は腰が痛く、辛い状況ですが日々、祈りながら過ごしています。

実はマザーハウスで「たより」の発送作業をして下さっていたボランティアのミカエラさんが、十月二十三日の午後五時十五分に永眠されました。とても優しく、私の過去を知っているにもかかわらず、私の過去を知っている時間を過ごさせて頂きましたが、闘病中であつたことを知りませんでした。ご自分がとても大変な状況であるにもかかわらず、受刑者の回復のためにマザーハウスと関わって下さり、本当に有難うございました。神様のもとでどうか私たちのことを見守って下さい。

二十四日の通夜に参加させて頂きましたが、その際も喪主である息子さんが、ミカエラさんは受刑者の人々のためにボランティアをしていたと話されていて、私は胸が熱くな

り、涙が流れ、ご家族の人々に「有難うございました。私はお母様のことを決して忘れたいし、大きな勇気を頂きました」とお伝えさせて頂きました。

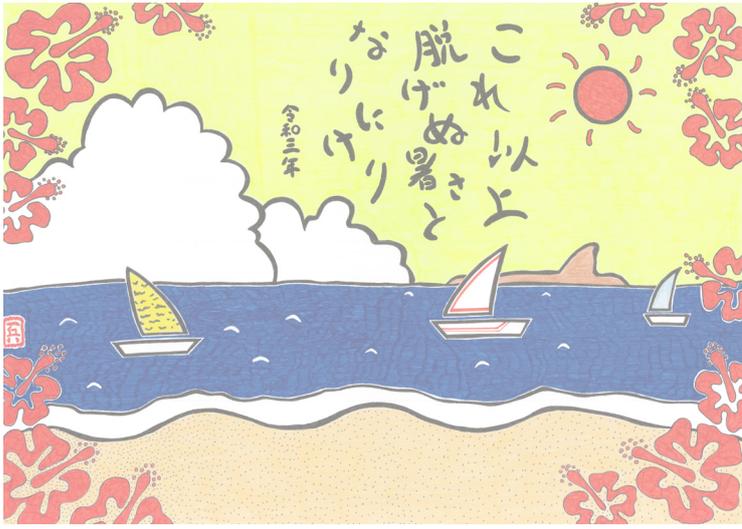
受刑者の皆さん、あなたのために社会で回復を祈り、新しい人生を歩むことを願っている人たちがいることを忘れないでほしいです。そして決して一人ではないのです。社会は皆さんに対してとても厳しいですが、回復の道を必死で歩んでいる人たちには違うと思います。私の周囲にはいつも応援してくれる方がたくさんいて下さり、私のことや家族のことを大切にさせて頂いております。何よりもキリストの家族であることが嬉しいのです。

先日、ある文通ボランティアの方から連絡を頂きました。その方は、「受刑者と二年ほど文通をしてきて思うことがあります。例えば、家族や友人と文通を出来ている人は別ですが：唯一の社会との繋がりが文通ボランティアとの手紙だとしたらどうでしょう。唯一の楽しみ・癒しだとしたら：。もちろんそこにいる時点で犯罪を起こし、入所しているのです、悪いことをしたのでしょう。でも罰は受けています。改心されて真面目に努めている方もいらつしゃると私は信じています。受刑者が少しでも気が紛れたり、楽しみの一つになるよう、便せんについても自分でパソコンにて作り、使用しています。例えば、綺麗

な景色や、綺麗な花、動物、海、空などです。相手のことを考えたら自然とそういう気持ちになれました。文通ボランティア側から言わせてもらうと、文通ボランティアなんだから：余計に一月以上あけずに手紙を出すべきだと思います。規約に、『相手から手紙が来なくても一か月に一回は、はがきや手紙を出しましょう』と書いてありますもの。忙しいときもあるでしょう。体調が悪いときもあるでしょう。人間ですから。だけど相手も人間です。感情はあるのですから、社会にいる私たちは目まぐるしく日々が流れて行きますが、受刑者は毎日、同じ流れの生活。やはり唯一の楽しみの手紙を届けてあげたいと思います。すみません、想いのまましゃべってしまいました。こんな考えの文通ボランティアもいるよと、受刑者の方に伝わったら嬉しいです」と、言われました。とても有難いことであると思います。

教皇様に私がお手紙を出した時、教皇様はお返事を下さいました。今の自分は日々、忙殺されている状況であり、なかなか返事が書けないでいます。今月からは「日曜日は返事を書く日」と決めて実践しています。講演会があつても必ず、手紙を書きたいと思っています。

私は更生・回復には社会の人とのつながりが必要であると思っています。何故なら社会復帰したら社会で生きて行くからです。その社会との繋がりが無いから、再び刑務所に行



一兵さん「夏だね！」

くことになるのではないのでしょうか？そして手紙は「正直に」書くことが大切であると思います。自分を飾っても何も生まれません。正直に生きることが大切であると思います。色々な意味で難しいこともありますが私は正直に生きて行きたいです。

今年もあと一か月で終わりです。私にとっては、十二月三十一日で社会復帰十年となります。色々なことがありますが、とても困難な十年であったと思いますが、いつもキリストを見つめながら祈り歩んできました。仲間たちと、十二月十六日から十九日まで京都に行き、イベントを実施する予定です。

十月十六日に、聖イグナチオ教会で「受刑者とともに捧げるミサ」をして頂きました。その際、菊地功大司教から頂いたメッセージをご紹介します。

☆

昨年初めからすでに二年近く続いている感染症による困難な状況は、地球的規模で、人類社会に大きな影響を与えています。感染症対策のため、各国の政府によって取られたさまざまな政策によって、経済が悪化し、雇用関係が不安定になっている国も少なくありません。もちろん人類にとって未知の感染症です。誰ひとりとしてどのように対処すべきなのかについて正解を知っている人はおらず、また感染症の実際の健康への影響も、専門家の間にもさまざまな議論があります。わたしたちも目に見えないウイルスが相手ですから、一体どう対処したら良いのが判然とせず、この二年近くは、本当に暗闇の中を手探りで歩んでいるような気持ちに包まれています。

教会も大きな影響を受けています。教会は定期的に大勢の人が集まることで成り立ってきましたが、残念ながらそのこと自体を制限しなくてはならなくなり、活動が大きく制約されています。

教皇フランシスコは、昨年、一時中断していた一般謁見を2020年9月2日に再開し、その日は少数の会衆を教皇宮殿の中庭に入れて、こう話されています。「このパンデミックは、わたしたちが頼り合っていることを浮き彫りにしました。わたしたちは皆、良くも悪くも、互いに結びついています。この危機から、以前よりよい状態で脱するためには、ともに協力しなければなりません」。教皇様は、誰ひとり排除されない社会を実現し、すべてのいのちがその尊厳を守られるようにと働きかけてきましたが、特にこの感染症の困難に襲われてからは、地球的規模での連帯の必要性を強調されました。しかし残念ながら、連帯は実現せず、かえって孤立と孤独が激しくすすみ、いのちが危機に直面しています。

今年2021年の復活祭にあたってのメッセージで、教皇様は次のように述べられました。「パンデミックはいまも猛威をふるっています。社会的、経済的な危機はいまだに深刻な状態にあり、とくに貧しい人に大きな影響を及ぼしています。それにもかかわらず——とんでもないことですが——武力紛争と軍備拡張はとどまることを知りません。今、こんなことがあっていいはずがありません」。

その上で教皇様は、「十字架にかけられ、復活された主は、仕事を失った人や、経済的な苦境に陥っても社会から適切な保護を受け

られない人の心の支えです」と呼びかけられます。今わたしたちの社会は、不安の暗闇の中に置き去りにされている恐怖から、他者に対する配慮をする余裕を心から奪い、不寛容な心は利己的になり、自分を守ることにばかり集中して、助けを必要として叫びを上げている人の存在を見えないものになっています。

教皇様は「福音の喜び」で、教会のあるべき姿を、「出向いていく教会」であるとされました。自分の安全安心を守ろうとするのではなく、常に挑戦し続ける姿勢を教会に求めました。失敗を恐れずに、常に挑戦を続ける教会です。しかもその挑戦は、困難に直面し、誰かの助けを必要としている人のところへ駆けつける挑戦です。そして「福音の喜び」には、「イエスは弟子たちに、排他的な集団を作るようには言いませんでした」という言葉もあります。その上で教皇は、「教会は無償のわれみの場でなければなりません。すべての人が受け入れられ、愛され、ゆるされ、福音に従うよい生活を送るよう励まされると感じられる場でなければならぬのです」と指摘します。

今、教会は、この困難な現実の中で、命を守るために、積極的に出向いていき、助けを必要とする人たちとともに歩んでいかななくてはなりません。ちょうど今、教皇様は2023年の秋に開催される世界代表者司教会議の準備を、世界中の教会で、明日から

始めるようにと指示をされています。明日、10月17日のミサの中で、それぞれの地におけるシノドスのプロセスが始まります。シノドスという言葉は、会議の名称ではなく、そもそも「ともに歩む」事を意味しており、教皇様はまさしく教会が、「ともに歩む」教会であるようにと願っておられます。誰ひとり忘れられることのないように、神から愛されて命を与えられたわたしたちは、司教も、司祭も、修道者も信徒も、ともに支え合い、助け合いながら、互いの声に耳を傾けあい、歩んでいきたいと思えます。

わたしたちの歩みは、暗闇を彷徨う不確実な歩みではなく、わたしたちと共にいてくださる主とともに前進する歩みであり、神の民を導かれる聖霊の声に耳を傾けながらの前進です。

マタイ福音は、「求めなさい。そうすれば与えられる」と語るイエスの言葉を記しています。イエスはわたしたちに、求めること、探すこと、門をたたくことを求めます。問題は、一体わたしたちは何を求め、何を探し、どの門をたたくのかであります。同じ福音の記述の続きには、こう記されています。「あなた方の天の父は、求める者に良いものをくださるに違いない」。すなわち、わたしたちは、自分がそうあってほしいと願うことを求めるのではなく、神が良しとされることを求めるときに、与えられるのです。神が望まれ

る命の生き方を実現しようと求め、探し、門をたたくときに、初めて神は答えてくださるのであって、わたしたちの自己実現や自己満足のために、欲望を満たす何かを探し求めても、それは与えられません。

ですからわたしたちは、神が良しとされる生き方とは一体どのような生き方であるのか、神が良しとして定める道はどこにあるのか、神の国の門はどの門であるのか、つねに見極めながら、より良い方向へと進んでいかなくてはなりません。だからこそわたしたちは、この道と一緒に歩むのです。その「一緒に」には、神が良しとして創造されたすべてのいのちの尊厳が含まれています。排除されてもよい人は誰ひとりいません。互いに支え合いながら、わたしたちは一緒に歩む道を見いだし、歩んでいきたいと思えます。

今日このミサを捧げながら、過去を顧み、許しを求めている人に善なる道が示されるように、祈りたいと思えます。同時に犯罪の被害に遭われた方々の、心と体のいやしのために、祈ります。さらには、加害者のご家族、また被害者のご家族の方々の、いやしと生きる希望のために、祈りたいと思えます。そして、すべての人が神の望まれる道を歩むことができるように、受刑者の方々に、また犯罪の被害者の方々に支援の手を差し伸べるすべての人のために、心から祈りたいと思えます。キリストに従うわたしたち一人ひとりが、神

が望まれるより良い道を、互いに支え合って、歩み続けることが出来ますように。

☆

来年の「受刑者とともに捧げるミサ」が、オンラインだけでなく、公開ミサでも出来るように願っています。



光りんさん
「伸びのび、やろう！」

社会の声

学生の感想①

■埼玉大学 教育企画課授業「地域創生を考える」での講義後、学生から寄せられた感想をご紹介します（誤字脱字等以外、原文ママです）。

☆

今回初めて聞く話がたくさんありました。特に驚いたのは、殺人は家庭内がいちばん多いということでした。一緒にいる、お互いをよく知っている間柄だからこそ悪い部分が見えてしまうのは悲しいことだと思いました。今後、自分と家族がそういう関係にならないように良い関係を築きたいと思います。

また、「犯罪者も同じ人間」という言葉が心に残りました。私はまだ日常生活で犯罪者と出会った事が無いけれど、もし出会ったら

偏見を持ってしまおうなと思ったからです。今日話を聞いて、罪を犯したという面以外のその人の面にも目を向けたいと思いました。

☆

痛みを分かち合う人が必要であると学んだ。そしてそれは自分と親しくない人間であると良いと学び、自分のこの夏の経験と重なる部分があると感じた。

今年コロナウイルスにより大学に通うことが出来ず、不安の毎日を送っていた私は友人のミスコン出場を機に（インターネットで）ライブ配信を見始めた。最初は配信を見るだけであったが、ちよつとしたきっかけで自分が配信することとなった。その配信の中で自分は自分の悩んでいることを相談し、リスナー（＝視聴者）の方から逆に相談を受けることもあった。顔も性格も背景もわからない人に不安を打ち明け、アドバイスをもらうことで楽しい毎日を過ごすことが出来た。これはマザーハウスの受刑者との文通に似ている部分があると思う。

☆

今日の講話で一番印象に残っている言葉は「目の前の人を愛することほど難しいことはない」という言葉です。近しい人ほど思いを

伝えられなかったり、衝突も起きたりするものなので、周りの人を大切にしなければならぬと気づかされました。

また、元受刑者の方が社会復帰で苦勞する話は度々耳にします。マザーハウスの活動を通してそういった差別が少しでもなくなっただけです。

☆

「目の前の人を愛せるか?」。私は過去を振り返ることが多い。昔、とても嫌なことをされたことがあり、今でもその人を許すことはできない。Aさんになると、Aさんはクラスからも嫌われるようになってしまった。この様子がまるでAさん⇨受刑者であると思っただ。Aさんは私やクラスの人達にも謝罪はしたが、周り(私を含め)は心から許してはいなかった。Aさんは周りから孤立するようになり、部活もやめ、今まで仲良くしていた友人たちも離れていってしまったようだ。Aさんは結局十年ほど経ったが成人式に来ることもなかった。

私はAさんを一生許さないと思う。これは被害者の立場でものを考えているからだと思う。しかし、Aさんもある意味被害者だったのではないだろうか?今まで友人だと思っていた人たちから突き放され、元の関係に戻ることもできずに学校という社会、ひいては地元の町からも孤立してしまった。受刑者の方

もAさんと同じ、もしくはそれ以上の悲しみや苦しみを感じたのではないだろうか?被害者側で考えるか、受刑者の気持ちで考えるか?という考えのそもそものが違うのではないかと。二項論をとるのではなく、うまくは言えないが、もっと広いものの見方をする必要なのではないかと思っただ。Aさんは最後に私に許されたいと願っただが、私は許せなかつた。しかし私がAさんの立場に立っていたなら、また違っていたのかもしれない。

☆

今回の講話を聞いて、犯罪をしてしまった人であっても他の人と同じ人間であるという意識が何より大切であり、犯罪をした人を奇異の目で見ることは、その人の生きる力を奪ってしまうことと同じであることが分かりました。私自身はまだ犯罪加害者にも被害者にもなつたことがありませんが、もし自分以外の家族が被害に遭つたらきつと怒りと憎しみをもって犯人を恨むでしょうが、犯人からすべてを奪わず、罪の意識からのキズをもちながら、しっかりと生きてほしいと今回の講話を通して考えるようになりました。

☆

講話の中で「目の前にいる人を犯罪者として見るか、同じ人間として見るか」「あなた

は何をしたんですか」と言われたときが一番苦しかった」などの言葉を聞いて、本当に小さな心ない言葉がどれだけ相手を傷つけるのかということに再認識しました。これから大学生活を過ごして社会に出てからもたくさんの人と出会う機会が増えてくると思うので、どんな人間も目の前の「人間」としっかり向き合うことがとても大切だと感じたし、見た目や経歴でその人のことを判断しないような人間になろうと強く思いました。

私は大学に入ってからインターネットを通じてお金を騙しとられそうになったことがあります。講話の中で、「助けて!」と言える場所を作ることが大切」という言葉を聞いたときに、このことを思い出しました。その時、私は自分で解決できる!というよく分からない自信があつたけど、最終的には母に手伝ってもらわなければ本当にお金をとられるところで、日常生活の中でも何でも自分の胸の中にあるわだかまりなどを吐き出すことや、小さいなことでも相談できる場所の必要性を深く感じました。今回のような講話は今ままであり聞いたことがなかったもので、色々なことを深く考えさせられるような内容で、とても興味深かつたです。ありがとうございました。

☆

自分に助けを求めてきた人に対しては、その人の肩書や経歴ばかりに注目するのではな

く、その人の中身を知ろうと向き合う努力をすることが大切なのだと感じました。また、自分のことをよく知り、できない・やりたくないことをしっかりと断る勇気を持つこと、自分の弱いところを認めて助けを求めることが、自分を守ることにつながるのだと学びました。

☆

今まで犯罪者の社会復帰について、被害者が今も苦しんでいたり、命を落としていることもあるのに、加害者が復帰することは酷いことなのではないかと考えていたが、しかし、犯罪者が社会復帰をしてきた際にこちら側が「犯罪者」というレッテルを貼り、つながりを持つことを断つことで犯罪者を孤立させ、さらに犯罪に走らせ、また被害者を生み出すというサイクルがあることを知り、犯罪者の社会復帰を受け入れる一般人の「受け入れ方」も考えなければならぬと感じた。社会全体で犯罪者の社会復帰について考えなければ犯罪はなくならないと思った。

☆

最初に五十嵐さんの経歴を聞いたとき、とても衝撃を受けた。なぜなら講演に来るゲストスピーカーはみんな華やかな経歴を持った人がくるのではないかと考えていたからだ。

講話の中で印象的だったのは、過去に罪を犯した人にも一人の人間として接することが大切だという話である。「犯罪者」と聞くと、怖いなと思ったたり、関わりたくないなと多くの人が思い、犯罪者というだけで差別的な言動や態度をとるのはよくないことであると改めて感じた。同じ人として接することで、相手の人生を救えるのであれば、意識的に実行すべきことであると思う。

また、「目の前の人を愛することほど難しいことはない」という言葉も心に残った。身近にいる人ほど、冷たい態度をとってしまったり、ひどい言葉を言ってしまっていたと感じたからだ。これからは、身近にいる人を大切にし、そして助けを求めている人がいたら手を差し伸べられるような人になりたいと思う。



〇刑 Kさん

☆

私は家族のことをうるさいと思うこともあれるけれど、基本的には好きで大切なので「目の前の人を愛することほど難しいことはない」ということが最初は理解できませんでした。しかし、色々話を聞いていくうちに、家族との関係は家庭によって様々だと感じました。自分の置かれた環境から人生が左右されるということから環境の重要性を感じました。環境は自分だけでは作れるとは思われないけれど、まず自分が態度を改めることから始めるべきだと思いました。

再犯が多いと分かっている、受刑者が身近に住んでいることが嫌だと感じてしまう人も少なくないと思います。そんな状況で、市と協力して生活保護の対象にしてあげられることはすごいと思いました。受刑者の方たちとの手紙のやり取りは友達感覚で書いて良いものではないので、大変そうだと思いました。しかし、その手紙が受刑者の方の心に響いたときはとても嬉しいだろうと思います。そんな活動をしていることはとても素敵だと思いました。

☆

普通ならば聞くことができないお話だったのですごく色々な気持ちになりました。加害者には社会とのつながりが必要であるとよく

言われますが、経験談を聞いてその言葉の重さを実感しました。マザーハウスの取り組みはよくある地域の交流会という形であったり、人と文通する、ただ加害者であることが特殊というだけでごく普通の活動だと感じました。しかし、そういう活動が人の助けになるということを強く感じました。

☆

犯罪はやはり家庭環境がかなり影響を与えるのだと思った。犯罪をした人が悪いのは当たり前のことであるが、その人が生まれる環境や親の状況はその人に決められることではないから、子供時代に経験したことが影響しないように子どもへの適切なサポートをしてあげるべきだと思った。自分はそんなに悪い環境ではないから、これを当たり前と思わずに大切にしていきたいと思った。

☆

今はテレビなどで「凶悪犯罪」などといって加害者が悪のようにとりあげられたり、テレビのニュースなどでの報道もそういうものが多いので、今回の談話は違う視点から話が聞けて、今までの「刑務所」「加害者」に対しての自分の意識が変わりました。今回の談話を聞いて、今の社会の刑務所、加害者に対する態度、自分も身近に助けを求められたと

きに行動しなければならぬと改めて考えさせられることが多かったです。刑務所にいた過去の出来事を今話すことは辛いことだとは思いますが、全大学生に聞いてもらいたいくらい貴重で、心に刺さる講話だったので、これからもこのような講話をしていただきたいです。



光りんさん

「植物の世話が大好きな妖精⑥

カボチャで、ハロウィーンを楽しむ」

☆

今日の講話について、正直、共感・納得できる部分は少なかったです。自分がしたこと、刑期を満了したからといって棚に上げて、被害者の人生の傷などあまり考えてないように聞こえました。再犯を防ぐにはこういう意見は邪魔なかもしれません、一番重要なのは被害者の気持ちであることを忘れず、罪を犯した人が普通の人と同じように生活できるとは思わないでほしいです。工場勤務などで一生罪を償うべきだと思ってしまう。

この考えは自分が恵まれてるからこそのもので、人のことを理解する力が欠如していることを実感します。今日の授業で様々な人がいることを改めて知り、一人一人を理解していける心になろうと思います。

☆

今まで刑務所についての詳しい話を聞いた、受刑者の方と実際に対面したりしたことではなく、自分とはあまり関わりのないことだと思ってきたので、今日講話を聞いたのはとても貴重な経験になりました。刑務所内での生活の話は、予想していたものよりもはるかに辛いものだとなり、驚きました。また、刑期を終えればそれで済むというような話ではなく、その後の受刑者に対する支援が重要だということがわかりました。自分自身も「受

刑者」「犯罪者」と聞くと身構えてしまう部分はどうしてもあるのですが、それに惑わされず、その人自身をよく見て、向き合っていくことが大切だと思いました。

☆

実際に刑務所に入ったことのある人から話を頂くことは初めてで、おそらくこの授業がなかったら今後知ることもできなかったと思うので、とても貴重な経験だった。犯罪を起こしてしまう人が、「カッとなってやった」という供述をしたというニュースをよく見かけるが、そこに至るにも何かしらの理由があり、本当は環境も少しばかり関連しており、社会がそうさせてしまっているのではないかと、と一つ視点を増やすきっかけにもなった。

☆

最近では、SNSを悪用した性犯罪や誹謗中傷、マルチ商法などが横行していると思います。これは、心の病だと自分自身も思いました。携帯が広く普及し、世の中が便利になる一方、狭い自分だけの世界に閉じこもり、社会との繋がりが段々少なくなっているように感じます。これを解決するには、様々な人とのつながりを生で感じ取り、コミュニケーションをとることが重要なのではないかと思います。

☆

真剣に話してくださりありがとうございます。今まで全くと言っていいほど犯罪者の方と触れ合う機会がなかったため、とても貴重な経験でした。お話をする前までは正直、犯罪者の方には「自分と、自分の周囲の人は違った人たち」というイメージを抱いてしまっていました。犯罪は絶対悪だけれど、犯罪者もみなさんと同じ人間です」という言葉聞いて、自分が持っていたその凝り固まった考えは、人々を苦しめてしまうものだという事に気付かされました。

よく「襲われたときは『火事だ!』と言うと、他の人が逃げるために出てくるから、『助けて』と言わない方がいい」という術を聞きます。これは少し論点がずれてしまっているかもしれませんが、「助けて」と素直に言うだけで他の人が助けてくれるような世の中に私自身がしていきたい、「助けて」の声をすぐ拾うことができる人間になりたいと思いました。ありがとうございます。

☆

なかなか聞くことのない刑務所の課題やNPOの取り組みについて知識を深められ、自分自身も考えさせられる点が多い講話でした。マザーハウスは少なからず再犯を防ぐことに貢献していると思いますし、このような

取り組みの輪が広がればよいなと強く感じました。

☆

刑務所から出てサポートをしても十分なサポートにならずに、再犯をしてしまう可能性が非常に高いと思ったので、講話を聞いて、文通によって刑務所内の人をサポートしていくことが非常に重要だと思いました。また、文通相手となるボランティアの方も刑務所内の人と文通をしていくうちに「犯罪者は恐ろしい、危ない」というイメージをある程度拭き、受け入れられていくようになると感じたので社会に対しても良い影響を与えていくことが可能であると感じました。

マザーハウスの活動が再犯を少しでも減らすことに対して有効であることは今日分かったのですが、何か別の団体と協力することによって未然に犯罪を防ぐことは可能なのでしょうか。社会からの強い当たりを受ける前に防ぐということが今回の講話で非常に重要だと改めて感じたからです。少年院にいる人は文通が可能なのでしょうか。少年院にいる人は刑期が短くなるので、確実に社会に出ていると思われず。ここに対してのサポートをしているかがどうか個人的に気になりました。

☆

正直自分自身は、一度罪を犯した人間に対し何らかの嫌悪感を持っていました。それは、社会に属する多くの人がそのような認識であると思います。この現状が、再犯率がほぼ五十パーセントになってしまっている原因の一つであると学びました。このような、犯罪をした人に対して、心のケアをされているということ、非常に大変なことだと思いましたが、普段、生活している中では考えないようなヘビーな内容だったため、改めて考えるいい機会になりました。

☆

受刑者の生活や出所後の苦しみについて考えることは今までなかったのですが、今回リアルすぎるお話を聞いて、胸が苦しくなりました。講話を聞いて、道を踏み外してしまう人たちの多くは子どものうちから親などの周りの人からの愛を十分に受けられず、苦しい思いをしているひとが多いと知りました。「受刑者としてだけ見るのではなく、私たちと同じ一人の人間として向き合い、その苦しみや痛みを聞いてあげること、その人たちは救われる」という言葉が印象に残りました。困っている人が目の前にいたら、その人の苦しみに耳を傾け、向き合ってあげることが心に留めていこうと思います。

また、私は教育学部に所属しているのですが、これから、非行に走る少年少女や、彼ら

を救う方法などについて学び、考えていこうと思います。

☆

刑務所に入っている人と文通をする、ということに最初は「え、何を話すのだろう」「怖い展開だな」とマイナスのイメージを持ってしまいました。しかし、お話の中でこの活動がどんな意味を持ち、どれだけ弱い立場にある人の力になるのかを理解しました。

なかでも印象に残っているのは「みんな同じ人間。だから『助けて』の声に反応してあげなければならぬ」という言葉です。刑務所に入っている人というとまず初めに思い浮かぶのは「怖い」というイメージです。しかし本当は弱い立場にある人でした。私は今、小学校教員を目指していますが、弱い立場にあるような子、例えば少年院で教える先生とかそういった選択もあるなど、今日のお話を聞いて視野が広がりました。私の知らない世界の話をしていただき、本当にありがとうございました。

☆

今回話を聞いて、とてもいい経験になったと思います。なぜなら、刑務所の話を聞くことはなかなかないし、ドラマや映画で刑務所が出てきたとしても部屋の中でぼーっと

座っているときや、面会をしているときくらいしか見たことがないからです。そのため、話を聞いて今まで私が刑務所に対して思っていた印象が変わりました。特に驚いたことは、老人の世話をすることと刑務所に入った人は漢字が詳しいということ。今までは、刑務所にいる人は本当に何もすることがないと思っていたため、意外とやることやできることがあるのだと思いました。

また、今までは、刑務所での生活を知っている人がなぜ再犯をしてしまうのだろうと思っていました。しかし、出所した後の居場所がなかったり、精神的な疲労がたまったりしてしまえば、確かに、再犯をしてしまう人の気持ちもわからなくはないなと思いました。さらに、出所後に（企業の）面接に行っても話も聞いてくれないことには驚きました。私は働いた事がないので企業側の気持ちを考えることは難しいけれど、私は出所後に気持ちを改めて面接に来た人の話はしっかり聞くべきだと思います。確かに過去に犯した罪は消えないけれど、もう一度やり直すチャンスは与えるべきだと思います。

☆

普段の生活で、刑務所についての話や元受刑者の方の話を聞く機会というのはなかなかないので、大変貴重な機会になりました。文通ボランティアについても、初めて知りまし

たが、受刑者の方の心の支えになる重大な事業であると感じました。目の前の人をゆるすこと。「助けて」ということの大切さを講話から学びました。それができるようになるためにも、自身をしっかりと持つことが重要であると考えました。自分に自信を持ち、自分を話すことができる余裕を持っていけば、他者へも寛容になれるのではないかと思います。

また、質疑応答の時間では、刑務所内での話をリアルに知ることができ、文献で読んで得る知識より何倍も説得力があると感じました。講話を通して、受刑者・刑務所について知識を得られたのはもちろん、自身の、人との向き合い方について考え直す良い機会であったと思います。



○刑 Kさん

☆
実際に刑務所に入っていた方のお話を聞くことができ、加害者側にしか分からない苦しみを知ることができました。被害者側の訴えや苦悩はテレビなど様々なメディアで取り上げられているけれど、加害者側の話はなかなか聞くことができないので、とても良い機会になりました。

☆
本日は貴重なお話をありがとうございました。罪を犯した方の抱える困難や孤独について、テレビやネット記事などで目にしたこととはあっても、自分事のようにとらえていなかったと思います。周りの「助けて」というサインを見逃さず、受け止める。また自分をちゃんと知って、「助けて」がきちんと言える人間になる。ということを中心に留めた上で、これからの人生を生きていこうと思いました。

☆
なかなか聞くことのできない貴重なお話を聞くことができてとても良い機会になりました。罪を償うためにある刑務所ですっきりと刑期を満了しているのに社会に受け入れられないという現状は変えなければいけないと思

いました。本人の内面をしっかりと見て、犯罪者という過去にとらわれないような人との関わり方をしていきたいと思います。

☆
受刑者への支援活動、ホームページも少し見させていただきました。これからも救いの手を差し伸べる活動をしてください、と思います。犯罪者を作らないための何か活動をしてくださると嬉しいです。夜遊びをしている子供たちの集団(もしそういうのがあれば)の支援など、活動の幅を広げてくださると嬉しいです。

☆
文通ボランティアの存在を今まで知りませんでしたが大変素敵なプログラムだと思いました。被害者支援がメジャーなので、加害者の方々も本当は支援を必要としていることに驚きました。今後もっと加害者への支援が身近になっていくといいなと思いました。
更生された方のお話を聞かせていただく機会はあまりないので、大変ありがたかったです。社会のあり方や自分の価値観について見つめ直す貴重な経験になりました。

今回の講話で自分は初めて受刑者側の観点から話を聞いたが、以前まで自分は受刑者が罪を償ったら、しっかり更生して犯罪はもうしないのだと思っていたが、実際は再犯してしまう人も多いということまで心を痛めた。そしてその人たちが再犯してしまうというのは、社会の受刑者への見方を変えていかないことには再犯してしまう人たちは残ってしまうと思った。

☆

私は再犯率が五十パーセントくらいあることや、刑務所の状況が再犯を生み出すきっかけとなることもあるという話を聞いて驚きました。

☆

普通に生活を送るなかで、過去に罪を犯した方のお話を聞くことはないため、本当に貴重な機会でした。私は、今回の講義を受けて、どの人にも罪を犯す可能性はあるのではと考えるようになりました。お話の中でもありましたが、過信してしまうことは危険だと思いますが、「絶対」ということはいらないと思います。これから生きていく上で、犯罪だけのことでなく、「もしこうなったら」、「自分にこんなことが起きたら」、と想像力をはたらかせ

て過ごすことが大変重要なことだと感じました。

☆

ある程度見知った人よりも他人だからこそ真の心の中のことを言えるということに気付けた。刑務所に入っていた人というマイナスイメージがして近づきたくないと思っていたが、刑務所にいる人も「人」であってそれだけで遠ざけてしまったらそれこそその人を救うことができなくなるのだと思った。

人との信頼が人を形成し、信頼がなくなるの外へ、夜の世界に落ちてしまうとわかり、その前に誰かが救ってあげないといけない。これは身近な人でもありうるのでより深く考えられた。

☆

元受刑者という経歴をはじめに聞いて、悪いイメージをわずかながら抱いてしまいました。自分以外にもこのような偏見が社会全体として根強く存在していると感じます。その結果、更生して新しい人生をスタートさせようと思っても社会が受け入れてくれない、社会の中で自分の居場所が見つけれない元受刑者の方が多いという話が強く記憶に残っています。私はチャンスを与えないのは不公平だと思いました。出所は正しい意味で

の社会復帰ではなく、今後また社会の一員として認められるための過程であるとするなら、更生できた方の出所後の生活を支援する取り組みや活動が非常に重要であると思います。

文通や食事会などを通して社会とのつながりを保つということは独りにしないだけではなく、再犯の芽を摘むことにもつながります。マザーハウスのような活動や人の輪が広がっていき、自分の存在を肯定できる、自分の居場所が見つけれられる人が増えてほしいなと思います。



M 刑 E さん

やさきみつお コーナー

赦す勇氣

♪ブログ：<http://ixsasaki.ti-da.net/>

一・映画「赦しのちから」

映画「祈りのちから」（原題：War Room）の第二弾、「赦しのちから」（原題：Overcome）を観た。二つともアメリカの同じ教会が制作したものである。

「感動して二千回泣きました」という大きな感想を読んだが、確かに、とても涙なくしては観れなかった。

前回の「祈りのちから」は、祈りによって離婚寸前の夫婦が和解した物語、今回の「赦しのちから」は、赦すことによって親子の断絶が回復した物語である。

生まれたばかりの娘と妻を捨てて、父は蒸発してしまった。間もなく妻は薬物におぼれ

自殺。一人残された娘は母方の祖母によって厳しく育てられた。「あなたのお父さんも薬物中毒で死んでしまったのよ」と祖母から言われていた。

「もし愛の神がいるとしたら、どうして神様は私から両親を奪ったの？」。そう思いながら少女は孤独の中で育つ。

教会の奉仕活動で、ある時、少女の学校の先生が入院中の重病患者を慰問した。「自由と成功を求め、妻と娘を捨てて、新しい土地で働きましたが、ことごとく失敗し、今は死を待つばかりです。でも、そのどん底で神に出会いました。すべてを失いましたが、神こそは私のすべてであることがわかりました。でも、死ぬ前に娘に会って心から謝りたいんです」。患者の証を聞いて、彼が少女の父親であることを知る。

少女は先生に連れられて父に面会した。しかし、涙で謝罪されても、どうしても父を赦すことができない。

その苦悩の中で校長先生の勧めにより聖書を読み、自分が天の父にこよなく愛されている神の娘であることを知る。少女は勇氣をもって父を赦した。

数か月後、娘に赦された父は、喜びのうちに天に召されていった。

二・赦す勇氣

「赦す」とは、自分の感情を越えた、「赦し難きを赦す」という強い意志であり、断固とした勇氣である。

「父よ、彼らを赦してください。彼らは、何をしているか自分でわからないのです」（ルカによる福音書 二十三章三十四節）というキリストの十字架上の叫びこそ、最大の赦しであり、最大の模範である。

赦しの究極は自我に対する勝利である。

「世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか」（ヨハネの第一の手紙 五章五節）。

神は最大の犠牲を払って自分の罪を赦してくださったのだから、自分も他の人を赦すべきではないか。他の人を赦さないということは、その人に対して自分の心を固く閉ざしてしまい、神の祝福（愛、喜び、平安）を拒絶しているのである。その人に会ったり、その人を思い出したりする度に、怒り、憎しみ、悲しみに襲われ、愛と喜びと平安が失われる。赦さないことは、人を不幸にするだけでなく、自分をもっと不幸にしている。

何が正しいのかは、その人の考え方や置かれた立場によって異なってくる。だから、話

し合いによって受け入れ合わなくてはならない。

でも、多くの場合、「自分の義」にこだわるため、お互いの関係は修復されず、もっと大きく破壊されていく。

これ乗り越えるのが、赦す勇気である。

「自分の義」に立つのではなく、「神の義」に立つのである。神の義とは、愛することであり、赦すことである。

イエスを信じる者は誰でも神の子になる。神の子は、キリストの思いを自分の思いとすることができ、人のどんなあやまちも赦す勇気をもつことができるようになる。

「もし、人の罪を赦すならば、あなたがたの父もあなたがたを赦してください。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父も、あなたがたの罪をお赦しになりません」(マタイによる福音書 六章十四〜十五節)



五十嵐亜利沙(妻)による

育児日記

長男A君は毎日友達と帰宅します。私が留守にしていると電話がかかってきて、「ママどこにいるの?待ってるよ!R君(友達)が来ているからお母さんに電話しておいでー!」という声がとても可愛いです。

長女のKちゃんは、韓国の辛いラーメンが大好きでよく食べています。「辛い!」と言いつつ、大量のお水を飲みながら食べるので面白いです。

大人しいお姉ちゃんと違って、次女のRちゃんは、とにかく活発です。起床してから就寝するまで常に笑っていて、正に天真爛漫です。来年幼稚園に入るので、成長がとても楽しみです。

三女のMちゃんは、相変わらず人見知りがあるのですが、初めての人でも泣かないで笑顔を見せる時があります。相手の何を見ているのか不思議です。

塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

イライラや不安で心が塞ぎがち

F 刑 Nさん

もう、ここで人と関わることが、ものすごく嫌になり、たとえ自分の口が災いだったにしろ、もう懲罰を重ねても工場には行きたくなく、今の自分の心理状態が塞ぎがちで、ここでの精神科で眠剤、安定剤をもらって飲んでいて、ものすごく考えて寝れなくなったり、イライラがなかなかおさまらないから安定剤をもらっているのですが、今、様々な不安を抱えています。自分の出所日を不良の人たちが知っているの、自分が出所したら外で待ち構えているんじゃないかと、色々とものすごく不安になって、出所自体が怖いです。

正直、自分の言動で下手を打ってしまいました。もう、シャバでの生活もここでの生活も、何もかも上手くいかず、身元引受も帰宅先も、もう本当何もかも嫌になり、ヤケクソの投げやりになり、心を閉じがちになります。

あるオヤジ（＝刑務官）は「考え方とか変えてみませんか？」と言っていましたけど、その時のオレは、簡単に人に物事を言っただけじゃねえ、簡単に考え方とか変えられるんなら苦労してねえよ、と思ひ、その担当は、「これからの生活で考え方を変えていけば良いんですよ」と言っていました。今の俺には何も響きませんでした。

何もかも信じるのが難しくなっており、ほぼほぼ人生を諦めるほどに疲れ、嫌になりました。ただ、毎月のように、たよりだったりその他の本だったり、また自分の誕生日にはカードが届いたり、ものすごく嬉しく、感謝の気持ちだけは俺の心の中にあります。どんなに心の中が曇り、そして塞ぎがちになり、現在のここでの人間関係、出所日の不安・心配があっても、誰かにイライラ、頭にきてしまっている、話を聞いてくれる担当や配膳係などに心から感謝と、時にはオヤジたちに「有難う」と声に出して言うようにしています。

「見ていないだろう」より、
「見ているかもしれない」

熊本の貴水さん

こちらの刑務所では、コロナ感染拡大に伴い、五月に一日だけ、炊事・洗濯・図書工場以外の工場の作業が停止となりました。それにより、午前中の一時間半を使い、作業中の安全対策ビデオを見て、感想文を書きました。私の内容は以下の通りです。

☆

昔から、建築現場では、「作業中の安全心得A、B、C」があります。A：当たり前のことを、B：バカにしないで、C：ちゃんとやる、ということですね。大部分において、作業中の事故とは必ず「人の不安全な行動」から起こるものです。スイッチの切り忘れ、安全柵（ガード・ヘルメット等）の取り外し、アクセルの踏みすぎ、等々、それは多岐に渡るのですが、そもそも人が何も行動をしなれば、普通そこに事故は起きません。また、その逆を言えば、人が動くところには「何かしらの問題（原因）」がついてまわるのは、ごく当然であるのだ、と認識することが後々大切ではないでしょうか。

「まさか」だとか、そんなことは起きない「だろう」として行動をするのではなくて、「もしも」とか、いや起こる「かもしれない」と予測して動き、前もって予防策を講じたり（自分なりに対応策を練ったり）して、事故やケガを未然に防ぐのが適切かと思ひます。

人の行動やパターン、もしくは考え方など千差万別ですから、例えばそこに一つの「行動」「作業」があり、三つの危険予知を立てていたとしても、次の四つ目の危険が浮上してくると、その対応に人は惑い、難しく感じ、エラーが生じてしまいます。そうならないためには、常日頃から四つ目、五つ目の不安全行動に目を向け、なお自分自身で目標を定めて「石橋を叩いて渡る」つもりでいくのが、何よりの安全の第一歩であり、心構えだと思います。

☆

：と書いたのです。これはあくまでも建設現場での「安全スローガン」ビデオへの感想文だったのですけども、人間社会で生活をしていく限りはとても大切なことなのだと思います。

例えば、コンビニに買い物に行く、居酒屋へ飲みに行く、などを例にとってみても、どれだけの危険を孕んでいると考えられるで

しよう。歩く、横断歩道、交差点、信号無視、スピードオーバー、段差、飲酒運転、万引き、…などなど考えたら無限にあるように感じられます。人間に限らず、食べたり食べられたりする動物たちにとっても、毎日が危険回避の積み重ねだと思えます。しかし、いくら経験を重ねたとしても、突然の危機（例えば、スピード違反の暴走車など）から身を防ぐ手立ては、「あるかもしれない」と予測するしかありません。

人間について、時に「性善説」と「性悪説」とに分かれて昔から論じられていますが、私の個人的な見解から言えば、人とは「性悪説」寄りに見て考えた方が、何かと得るものがあるかと思えます。それはつまり、「人間の性は本来悪であるから、できるだけ善に近づけるように努力しよう」と、ざっくり言えばそういう考えです。あくまでも個人の考えです。人が見ていなければ、平気でゴミをポイ捨て。見ていないところで子どもを虐待したり、万引きしたり、制限速度を超えてスピードを出したり、などなど。人は他人に見られていないと、ついつい「タガ」が外れて、悪いことをしてしまう生き物ではないでしょうか。

人が人間社会で生きていく上で、他人の目を意識するのはごく当たり前であるし、またその「人の目」があるからこそ、決まり事ができ、正しく生きよう、とか、美しく生きよう、

と思うのでしょうか。女性ならばお化粧をするとか、それが自然のものだと感じます。私も含む、いわゆる犯罪者としての心理の裏側には、多かれ少なかれ、「人が見ていなければ少々は良いだろう」とか、「ばれなければいいか」と思い、何らかの悪事に手を染め、加担する、というものがあると思われます。それは良くも悪くも自身の「経験」として残ってしまいます。

「これをすれば、また捕まるかもしれない」「もしかしたら、誰かが見ているのかもしれない」と考えて過ごすことは、受刑生活のみでなく、人間社会で生きる上で大切なことです。

安全作業の話とはズレるかもしれませんが、誰かが見ているから危険なことではない、というのではなく、必ずそこに危険（悪や魔）が潜んでいることを認識した上で、良く保つ心が大事だと思えます。初めは「良く見せる」的な意味合いであったとしても、それは徐々に自分の癖となり、自分のものとなり、経験として残るでしょう。

仕事上、または生活する上においても、「安全行動で事故を起こす」といった状況は、誰一人喜びません。見ていないだろう、と思うより、見ているかもしれない、と意識する。また、見ていようが見ていまいが、例えばスピードを出し過ぎて横転してしまったら、自分が痛いばかりでなく周囲も巻き込みます。

見ているかもしれない、起こるかもしれない、と意識することで、危険を逆に安全に変える知恵が大事だと思えます。

「天網恢恢疎にして漏らさず」。天の道は極めて大きく、何一つ取り逃がすことは無い。どんな小さな事でも、天はちゃんと見ている、と。危険を認識することで初めて安全に歩いていけるのではないのでしょうか。

「おこるな、しゃべるな、むさぼるな、ゆっくりあるけ、しっかりあるけ」（種田山頭火）。



M刑 Eさん

「おかげさま」

弘雀（誉）さん

以前、朝礼の訓辞で、オヤジがある詩の話
をしました。

☆

夏が来ると「冬がいい」と言う
冬が来ると「夏がいい」と言う
太ると「痩せたい」と言い
痩せると「太りたい」と言う
忙しいと「暇になりたい」と言い
暇になると「忙しい方がいい」と言う
自分に都合のいい人は「善い人だ」と言い
自分に都合が悪くなると「悪い人だ」と言う

借りた傘も 雨が上がりれば邪魔になる
金を持てば 古びた女房が邪魔になる
所帯を持てば 親さえも邪魔になる

衣食住は昔に比べりや天国だが
上を見て不平不満の明け暮れ
隣を見て愚痴ばかり

どうして自分を見つめないのか
静かに考えてみるがよい

一体自分とは何なのか

親のおかげ
先生のおかげ

世間様のおかげの固まりが自分ではないか
つまらぬ自我妄執を捨てて

得手勝手を慎んだら

世の中はきつと明るくなるだろう

「俺が」、「俺が」を捨てて

「おかげさまで」、「おかげさまで」と暮ら
したい

☆

上所重助さんの「おかげさま」という詩で
す。

オヤジはこれを読み上げた後、「あれが嫌
だ、これが嫌だと言っても何にもならない」
と、現状を、今を受け入れ、感謝する心を持
つことを説きました。

この日は一日中、この詩が頭から離れませ
んでした。

ともすれば、心に余裕がなくなり、視界が
曇ることもあります。そんなときはこの詩
を読み返し、「おかげさま」と呟きます。

「堀の中のたより」のポリューム少なめ版です

つぶやき！

ここK刑は長期刑務所で、社会と同じよう
に高齢化も進んでいます。今年で五十歳近く
になった私ですが、まだまだ若年層に入りま
す。まわりのお年寄りのお世話などをして「有
難う」と言われると、とても「生きがい」の
ようなものを感じることもあります。

(K刑 Tさん)

☆

バスデーカードが届きました。とても嬉
しくて、感謝の気持ちでいっぱいです。本当
に有難うございました。本当に嬉しいです。
読んで涙が止まりませんでした。私の大切な
宝物です。

クリスマスには、かわいいクリスマスカー
ドを送って頂き、嬉しかったです。ここはシー
ルがついていたら、その場でサツと見て渡し
てもらえませんか。そういう決まりです。宅下
げするか、廃棄するしかありません。たぶ
ん、小さなお子さんが書いて、シールを貼っ

て送ってくれたんだと思います。まさか送って頂けるなんて思っていなくて、職員さんに呼ばれて「その場で読んで」と言われ渡されて、見た瞬間に涙が溢れて……。本当にビックリして嬉しくて……。有難うございます。娘が一人いるのですが、小さい頃、私にクリスマスカードを毎年書いてくれていたのを思い出して娘もシールをいっぱい貼っていました。そのことを思い出しました。胸が苦しくて、心に沁みました。本当に嬉しかったです。有難うございました！一生忘れません。宝物として持っておきたかったです。ごめんなさい。バースデーカード、大切にします。パワーを頂きました！本当に本当に、有難うございました。去年も今年も、唯一、バースデーカードでおめでとう！と言って頂きました。たった一人……嬉しかった……一年、また頑張れます。いや、頑張ります！本当に有難うございました。

(F刑 Nさん)

☆

四月に短気を起こしてしまい、十五日間の懲罰を受け、新しい工場へと配役になりました。前の工場で一年半、コツコツと積み重ねて来たもの全てが、ほんの二、三秒の我慢が足りなかったために、水泡と帰りました。当

時は「すっきりした」と単純に考えて生活していました。五か月という時が流れた今、「後悔」することが多くなりました。

類も降下し、作業報奨金も……「後悔先に立たず」ですね。終わってしまったことをいつまでも引きずっていても仕方なし、と気持ちを切り替えて務めることにしました。今は経理係として頑張っています。前刑、前々刑と経理の経験があり、工場の担当さんの期待に応えられるよう、努めていく所存です。年齢のせい、小さなミスが続いていますが、それも徐々に少なくなってきました。

(A刑 Sさん)

☆

事件当時の私は、全ての歯車が狂ってしまった。正常な判断と感情のコントロールができずにズルズルと罪を繰り返して、自分勝手な行動を正当化し、被害者へ責任転嫁して暴力を振るっていました。原因は色々あると思いますが、前刑の事件の元となった若い女性に対して嫌悪や怒りを覚えるようになり、フラフラ遊んでいる女性(そのように見えたと)を見ると、「お前らのせいで俺は」とイライラが日々大きくなり、そしていつしか自分で自分の感情が制御できなくなり、暴力を振って犯罪を繰り返していました。あんな

ま捕まらずにいたら、もっとエスカレートして誰かを殺めてしまったかもしれません。

私は現実の苦しみから逃げていたように思います。今回は自分自身としっかり向き合い、自分の悪いところなどメンタルケアをしつつ、カウンセリングなども受けてやり直したいです。

(N刑 Wさん)

☆

現在O刑にて服役中、八年の刑で残刑は八か月。これまでの間、本当に色んな事があった。懲罰全五回。いずれも閉居罰。通算七十五日。昼夜間独居処遇(処遇上)六か月。素行が悪いとの理由で、工場にも出られず、この六か月は缶詰生活。本当に辛かった。その後、改心し、現在、無事故三年七か月。昨年二月から一年間、建築科の職業訓練に行くことができた。無事に修了し、還送され、元工場へと配役。戻って来た時には、ある職員が「よく職業訓練に行けたな、よく頑張ったな、O刑の奇跡だぞ！」と言ってくれ、本当に嬉しかった。

こんな素行の悪い自分だが、強く目標を持ち、それに向かって日々我慢し、頑張れば願いは叶う。身をもって思い知らされた。こんな自分でも改心し、変わることができた。ど

うか目標を持って生活することをおすすめします。現在、本面接待ち。社会復帰に向け、平穩に生活していく所存です。

(サーティ・ワンさん)

☆

毎日聖書を読んでいると、その日その時の気持ちが変わるように、聖書も違う気持ちになります。

旧約聖書のヨセフの気持ちを考える時がありました。兄を憎まない気持ち：私は人をゆるす気持ちがまだ足りないように思いました。私は刑務所に入ったとき、「ああ嫌だ」「なんで」と思う気持ちが強く、全部が敵に見えました。でも聖書に出会って、聖書を読むと、その気持ちがなくなり、前を見る勇気が出てきました。

私が好きな言葉は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」です。私は今その気持ちで一日一日頑張っています。

聖書を読み思ったことは、自立できても信仰を植えられなかったら不十分、信仰を植えても自立できなかったら不十分、信仰者であって神に仕えることができて人も人に仕えることができなかったら不十分、人に仕えることができて神に仕えることができなかった

ら不十分、ということですが。聖書は日々の気持ちを考えさせてくれる本です。

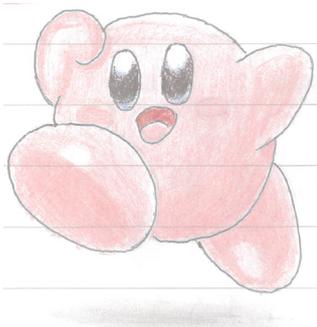
(A刑 Oさん)

五十嵐亜利沙(妻)による

ラブリーDAYS

当事者Sさんが彼女と一緒に自宅に来てくれました。

Sさんは、以前は出所してから社会にいるのは一年もたなかったそうですが、今は約七年、社会にいます。自分で部屋を借り、携帯電話も自分の名前で借りられたとのことですが、仕事も頑張っていて、前より優しく、彼女のことが大好きなのがとても伝わりました。いつまでも幸せでいてほしいです！



O刑 Kさん

社会の声

学生の感想②

■岐阜保健大学での講義後に寄せられた感想をご紹介します(看護学部一年生より。誤字脱字等以外、原文ママです)。

—つづき—

五十嵐さんは刑務所に二十年間入っており、殺人と覚せい剤以外の罪は全てやったとおっしゃっていました。私たち医療従事者は、このような犯罪をした人の命も助けなくてはいけないんだという事を学びました。もし、自分の大切な家族や友達を傷つけられ、失ってしまったら私は絶対に助けたくないし、同じ思いをしてほしいと思います。

五十嵐さんはある被害者の家族の方に「自分が犯した罪を一生忘れないでください。そして幸せになってください」と言ってもらえ

たとおっしゃっていましたが、私なら罪を犯した人に対して幸せになってくださいなんて言えないなと思いました。

人間にとって一番辛いのは孤独でこれに耐えられる人はいないとおっしゃっていました。人に悩みを相談できるという事はとても幸せな事だと思いました。

犯罪はどんな人でもしてしまうもので、「私は犯罪者にならない」と思っている人が一番危ないとおっしゃっていました。日本で起こっている殺人事件は大半が親族の中で起こっていて、いつも一緒に過ごしていた人が加害者や被害者になる。自分の信念を曲げずに一生懸命生きてほしい。目の前の人を愛おしく思い、大切にしてほしい。これは刑務所に入っている時にいろんな人に関わって学んだ事だとおっしゃっていました。

私たちは今後社会に出て働いていく上で、関わりたくない人や自分とは合わない人が出てくると思います。大変なことや辛いこと、苦しい事がたくさんあると思うけどそれを乗り越えた先にある幸せや喜びを分かち合いたいとおっしゃっていました。

心に傷を負った人の回復はとても道のりが長く、それを支え助けてあげられるのは医療従事者である私たちだと思います。今の日本は助けてほしい時に助けてと言えない状況になっています。そんな中、助けを求められた

らどうやって対応するかが大切なポイントになってくると思いました。自分の置かれた場所で、自分らしい花を咲かせられるようたくさんのことにチャレンジしていきたいと思えます。花の咲かせ方は人それぞれだけど立派な花を咲かせていきたいと思いました。そのためには、学生のうちに色々なボランティア活動に参加したり、勉強に励んでいきたいと思えます。

—つづく—

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

発達障害

お久しぶりです。先月号は休んでしまい、申し訳ありませんでした。気がついたら、もう今年も終盤に近づいています。皆様お元気にされていますか？

先月末より、通信教育の課題について、私の方で直接やり取りする（これまでは事務局を介してプリントを送付しておりました）という方法に変更となりました。そのため、「修了証が送られてこない」「通信教育の課題が送られてこない」など不手際があるかも知れません。その際は、マザーハウス通信教育講座までご連絡下さい。早急に対応致します。

さて、発達障害についての質問を頂きましたので、今月はその特徴について説明したいと思えます。

発達障害とは、「先天的な脳の機能障害の偏りによって、コミュニケーションや対人関係など、日常生活に困難が生じる状態」のことです。これは、生まれ持った脳の特性によるもので、親の育て方で生じるものではありません。以前は知的障害を伴い、幼少期に診断されるものと考えられていましたが、現在は知的障害を伴わない場合も多いことが分かかって来ました。小中学生の時に、ある程度勉強ができて、環境にも順応できていると、気がつかずに通り過ぎてしまうことも多いです。しかし、社会生活を営むようになると、高度で複雑なコミュニケーションが求められることから、困難を抱えるようになり、その時に初めて「発達障害」と分かることもあります。

私たちはそれぞれ個性があり、一人ひとり違います。発達障害についても、はっきりと

線引きができるものではなく、誰でも大なり小なり特性を持っています。しかし、それによる困難が重なる「発達障害」の診断がなされます。

発達障害は大きく次の三つに分類されます。中には、複数種類持ち合わせる人もいます。

一・自閉症スペクトラム

・相手の表情や態度などよりも、文字や図形・物に関心が強い。

・見通しの立たない状況では不安が強いが、見通しの立つときにはきっちりしている。

・大勢の人がいるところや、気温の変化などの感覚刺激への敏感さで苦労しているが、それが芸術的才能につながることもある。

二・注意欠如・多動症

・幼少期から多動・衝動症状の特徴があらわれて、早い段階で診断されることが多い。

・大人で診断される場合、仕事で不注意が重なり、業務に影響を与えて気づくことが多い。

・次々と周囲のものに関心を持ち、周囲のペースよりもエネルギーに様々なことに取り組むことが多い。

三・学習障害

・「話す」「理解する」は普通にできるのに、「読む」「書く」「計算する」ことが、努力しているのに極端に苦手である。

回復プログラム 実践

- 「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフより個別に返信致します。事務局やフランシスコ等、他のお手紙との同封はせず、個別に「回復プログラム係」宛に送付して下さいますようお願い致します。

【第七回目】

・「悔い改める決意」を新たにするために…

1. 「悔い改め」という言葉を聞いて何を感じますか。
2. 「悔い改め」に関して、自分の中に矛盾感情（悔い改めたいという心情と、悔い改めたくないという心情）がありますか。
3. その矛盾感情の原因は何ですか。
4. その矛盾感情をどのように克服したら良いでしょうか。
5. 今の自分が「悔い改める」ために何が必要だと思いますか。

専門インストラクター ニロ先生による

プリズムアート倶楽部

★このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。
★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため必ずご相談ください。

紅葉と銀杏



【今月号のコツ】

私が小学生だった時の思い出ですが、家族で近くの山へ紅葉を見に行きました。

丁度、寒くなる時期で、近くに温泉もあったので、温泉に入りながら、紅葉や銀杏の木を眺めました。

温泉の近くには川も流れていたのので、紅葉した落ち葉が川を沢山流れていて、とても綺麗でした。

皆さんの、紅葉や銀杏の木の思い出は、どのようなものでしょうか？

それでは、準備が出来たら、描いてみましょう。

銀杏の葉は、扇形に描いて、中央より少し横側に、切り込みのような形を描き入れます。

紅葉は、葉っぱの中に、対角になるよう七本の線を描いてから、線を囲むように、先端の尖った葉を長く丸く描きます。落ち葉も丸く描いて、虫食いの穴も描いてみましょう。

形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。

見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描いてください。

絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

【解説】

ボタニカルファイナート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。

ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいように、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

ご支援 誠に有難うございます！

〈 10月1日～10月31日 〉

寄付金：143,200円

※今号発行時点で、寄付金として集計した分です。

編集後記 by 編集局

今月号もお読み下さり有難うございます。

最近、たよりの発送が月の下旬ごろになってしまっているのが、今月は早めに製作開始しました。この調子で、月始めから発送作業に取り掛かれるよう頑張りたいです！

また、今月は希望者に福音たよりクリスマス号を同封しております。

行事予定

▼ 11 / 24 9:00～

立命館大学にて、講義

▼ 11 / 26 18:00～

APS 研究会 (in 京都)

▼ 12 / 4 16:40～

カトリック・ジャパン NCACJ にて、講演

▼ 12 / 10 18:00～

当事者ミーティング

▼ 12 / 15 10:00～

千代田区役所 福祉課職員研修にて、講義

▼ 12 / 16 14:40～

立命館大学にて、講義

お知らせ

【重要】 フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用されない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できませんので、あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、お願い致します。

【重要】 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- 突然たよりが送られなくなった。
- 刑期（出所日）が変更になった。
- 切手やお金を送った後、2か月経っても、受領書が届かない。
- 入会申込書もしくは会費を送った後、2か月経っても、マザーハウスから何も届かない。
- 年金に関する手続きを希望する。
- 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料800円分が必要です）。

【重要】 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84円以上の切手のみ使用可）は、1枚につき現金交換手数料5円がかかります。（例）100円切手×5枚の場合：500円－手数料5円×5枚分＝受領額475円

○たよりのコンセプトは、刑務所と社会の双方に向けて、「こういう意見・思いが届いています」と発信して橋渡しをすることなので、こういう考え・感性の人が刑務所・社会にいて、マザーハウスを通して自分と繋がりを持っている、という感覚で読んで頂ければ幸いです。

なお、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）。ですので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、よろしくお願い致します。また、たよりはマザーハウスのホームページでも公開されます。

マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 972円 (税込)

カフェドリップ10g (1回分) …… 108円 (税込)



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま (順不同) ☆

カトリック茅ヶ崎教会/カトリック北仙台教会/カトリック所沢教会/カトリック浜松教会/カトリック東山教会/カトリック布池教会/カトリック菊名教会/カトリック中和田教会/カトリック新子安教会/カトリック碑文谷教会/カトリック桃山教会 (平和環境部)/カトリック東仙台教会/カトリック春日部教会/カトリック足利教会/カトリック神田教会/カトリック太田教会/カトリック大分教会/カトリック西千葉教会/カトリック下井草教会/カトリック新潟教会/カトリック多治見教会/カトリック芦屋教会/カトリック鷺ノ宮教会/カトリック松戸教会/ドン・ボスコ社/クリスト・ロア宣教修道女会/日本カトリック神学院/聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶

♪オーガニックの純スリランカ産のセイロンティーです。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 50g (2g入り25袋) …… 756円 (税込)

オンラインでのご注文: <https://mariacoffee.shop/> (QR ↓)



ラウレンシオ (便利屋業)

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

(2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。)

TEL: 03-6659-2110 / FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

獄中POSTシリーズ

♪獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、ポストカード・封筒・便箋等に印刷する企画です。

FAX: 03-6659-5270

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法: 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード/封筒は1枚300円、便箋は10枚300円(税込)

☆ホームページにカタログ(随時更新)がございます。

☆収益は、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。



古本募金 (きしゃぼん)

♪書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお気を付けてください)

TEL: 0120-29-7000

お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員 (一口5000円/年) ☆賛助会員 (一口3000円)

☆社会復帰支援(ご寄付) を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)

マザーハウスたより 21'11月号

発行日: 2021年11月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook

↑ 理事長奥さんブログ

↑ MLP 問合せ